

ボランティア応援講座

～子どもの活動支援に向けてジャンプアップ！～

- 1 趣 旨 青少年教育施設の今日的な役割を理解し、子供たちの体験活動を支援するボランティア活動において、基本的な知識や技能を習得するとともに、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。また、持続可能な社会づくりのための人材育成（ESD）の視点から、SDGsを意識した研修や活動を行い、その理解に努める。

- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

- 3 共 催 国立大学法人福岡教育大学

- 4 協 力 北九州 ESD 協議会

- 5 期 日 [第1回] 令和2年10月31日（土）～11月1日（日） 1泊2日
[第2回] 令和2年12月19日（土）～ 20日（日） 1泊2日

- 6 会 場 国立夜須高原青少年自然の家
〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103

- 7 対 象 大学生

- 8 参加者 参加人数：24名

- 9 日 程 10月31日（土）

（午前）講義「青少年教育の理解Ⅰ」～青少年と体験活動の教育的意義

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

（午後）講義「ボランティア活動の意義Ⅰ」～地域・学校支援との関係

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

演習「避難所運営ゲーム（HUG）Ⅰ」～緊急時に役立つ多様性配慮の視点

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

実習「ボランティア活動の技術Ⅰ」～テント設営・野外炊飯編

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

- 11月 1日（日）

（午前）実習「ボランティア活動の意義Ⅱ」～子供の活動支援との関係

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

実習「その時何ができる?! 自然体験活動の危機管理」

WakuWakuOFFICE あそBe隊 隊長 薄井 良文 氏

（元阿蘇消防山岳救助隊 隊長）

（午後）実習「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」

国立夜須高原青少年自然の家 事業推進専門職

法人ボランティア登録の案内・説明

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

- 12月19日（土）

（午前）講義「青少年教育の理解Ⅱ」～青少年と体験活動の教育的意義

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職



講義「青少年教育施設の現状と運営」

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

(午後) 実習「ボランティア活動の意義Ⅲ」～子供の活動支援との関係

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

実習「ボランティア活動の技術Ⅱ」～野外炊飯編

国立夜須高原青少年自然の家 事業推進係

12月20日(日)

(午前) 演習「避難所運営ゲーム (HUG) Ⅱ」～緊急時に役立つ多様性配慮の視点

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

実習「ボランティア活動の技術Ⅲ」～テント設営編

国立夜須高原青少年自然の家 事業推進専門職

(午後) 演習「私たちの活動が、押さえておきたい SDGs の視点」

～カードゲームで未来を考えよう～

SDGs 推進ネットワーク in 九州 代表 亀井 直人 氏

法人ボランティア登録の案内・説明

国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職

NEAL (自然体験活動指導者研修) 説明

国立夜須高原青少年自然の家 事業推進専門職

10 活動の実際



【講義「青少年教育の理解」】



【講義「ボランティア活動の意義」】



【演習「避難所運営ゲーム (HUG)」】



【実習「ボランティア活動の技術」～テント設営編～】



【実習「ボランティア活動の技術」～野外炊飯編～】



【救命救急実習「その時何が出来る?! 自然体験活動の危機管理」】



【実習「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」】



【演習「私たちの活動が、押さえておきたい SDG s の視点」】



【グループ集合写真】

11 感想

- 様々な活動を通して、自分たちが参加するだけでなく、指導する立場になった時にどんな視点が必要か、考える時間があり、教えていただくこともできたので良い学びになりました。
- 初めて福岡の自然の家に行きました。日常生活や学校では学べないようなものを体験することができ、とても参加してよかったと思いました。また、ボランティアなどに積極的に参加し、自然体験を自分自身たくさん行いたいと思いました。
- ボランティア等でぼんやりと覚えていたことを改めて学ぶことができ、初めての体験を通して新しい視点に対する意識を深めることもできた。今回得ることのできた視点を忘れずにたくさんのものに関わっていききたい。
- 多面的視野でものごとを捉えることができたし、今自分は何をすべきかを考えて行動したし、その時間を作ってくれてありがとうございます。ただテントのたて方を教えるだけでなく、初めに自分たちで考えることとか子どもの指導上の注意点とか、ありがとうございました。
- 大学生でも体験の中で危険な部分があるので、小学生はさらに注意を払う必要があると感じた。楽しく学べるのが勉強の理想形だと改めて思った。
- 今までは野外炊飯など教えられる側としてやってきたけど、教える側の立場としてどのようなことに気をつけなければならないかがわかってよかった。SDGs のことも名前を聞いたことがある程度だったが、これからはSDGsのことを考えて行動できるようになろうと思った。
- 始めの頃と終わりのみんなの顔が違っていった。色々な視点（自分目線、教育目線）で見ていく中で気づくことが多かった。この視点を今後も持ったまま物事を考えていきたい。

12 成果

- コロナ禍によって、当初予定していた開催日が延期になったが、福岡教育大学の鈴木邦治教授にご協力いただいて、大学の集中講座「体験活動の指導法」と兼ねて実施することができた。

- 北九州 ESD 協議会との連携により、今回の企画が SDGs のうち「4. 質の高い教育をみんなに」「11. 住み続けられるまちづくりを」「17. パートナースHIPで目標を達成しよう」が該当する示唆をいただいた。講義・実習をとおしてこのことに触れたため、研修全体の意味づけや SDGs そのものに対する意識化が図られた。
- 救命救急実習は、元山岳救助隊長をされた薄井良文氏にご指導いただいたことにより、人命救助の考え方や方法、リスクマネジメントについて現実味を持って実習することができた（観察による）。
- 今回初めての企画として「SDGs2030 カードゲーム」を実施した。講師は、北九州 ESD 協議会からの紹介をもとに亀井直人氏を招聘した。講師の講話およびファシリテーションによって、SDGs が目指す未来を参加者は理解することができた。また、研修をとおして多様性配慮や他者理解等、ボランティアに必要な姿勢や視点を身に付けることができた（聞き取りによる）。
- 「避難所運営ゲーム（HUG）」は、多様性配慮の視点が子どもの活動支援にも活かせるスキルでもあるため、参加者には大好評であった（聞き取りによる）。また、地域安全協会の代表理事であり防災士の資格を持つ山本一 氏から助言もいただいて、昨年度、共同開発した HUG カードを更に改善させることができた。
- 本事業後、法人ボランティアの登録希望者が 20 名あった。うち 2 名は、後日実施された教育事業でのボランティアにつながった。

13 課 題

- 日頃から福岡県教育庁教育振興部社会教育課、県立 3 青少年教育施設、国立夜須高原青少年自然の家の間には良好な信頼関係が築かれている。例年、本事業は県立 3 施設と共同開催しており、講師として職員を派遣していただいているが、コロナ禍によって本年度は当施設のための単独開催となった。この連携が途切れることのないように、次年度は従来のおり共同開催する方向で確認したい。
- 新型コロナウイルス感染症の影響は、今後も続くと思われる。参加者の不安が取り除かれるように感染対策を講じるとともに、日帰り研修や自宅での課題研修等、あらゆる方法で実施できるように検討・準備しておく必要がある。